

## 現代における若者語の使用要因

—ポライトネスの観点から見た若者語—

鉄 沙耶香

<目次>

1. はじめに
2. 先行研究
  - 2.1. ポライトネスから見た若者語
    - 2.1.1 造語法から見た若者語の特徴
    - 2.1.2 意味対象から見た若者語の特徴
  - 2.2 若者語における話題の選択
  - 2.3 若者語の発祥
3. 研究課題と調査方法
4. 調査結果
  - 4.1 高校生
  - 4.2 大学生
5. 結論
6. 終わりに

参考文献

添付資料 アンケート用紙

## 1. はじめに

今日、若者の間では様々な言葉が、様々な場面で使用されており、テレビ番組やインターネットでも現代の若者語について取り上げられることも多々ある。三年次の文化論演習では、若者語というものは古くから言葉の形を変えずに、多くの女性の間で使用され続けているという分析結果を見出した。本卒業研究では、それらの結果を踏まえ、現代の若者語はどのような意味を持って使用されているのか、またどのような場面で使用されることが多いのか、そしてポライトネスの観点から見た若者語について分析していく。

## 2. 先行研究

若者語について米川(1998)では、「若者語とは、中学生から三十歳前後の男女が、仲間内で、会話促進・娯楽・連帯・イメージ伝達・隠蔽・緩衝・浄化などのために使う、規範からの自由と遊びを特徴に持つ特有の語や言い回しである。個々の語について個人の使用、言語意識にかなり差がある、また、時代によっても違う。若者言葉。」と定義している。具体的に若者語は「キャンパス言葉・学生語」「OL言葉」「若い男性社会人の言葉」に分類されるが、本研究では「キャンパス言葉・学生語」且つ、女性に多く使用される若者語について分析していく。また、第4章より「インターネットスラング」の記述があるが、本研究にける若者語は「インターネットスラング」と別の物として調査を進めていく。詳細は第4章において述べる。

### 2.1 ポライトネスから見た若者語

最初に、ブラウンとレビンソンのポライトネス理論について述べていく。以下、ポライトネス理論について宇佐美(2005)よりまとめたものである。

『ブラウンとレビンソンのポライトネス理論は、「フェイス(face)」を鍵概念とした「普遍理論」として提唱された。フェイスとは、常識的な意味での「面子」などと通じるころはあるものの、以下のように操作的に定義されたものである。すなわち、人間には、人と人のかかわり合いに関して、「ポジティブ・フェイス(positive face)」と「ネガティブ・フェイス(negative face)」という2種類の「基本的欲求」がある。ポジティブ・フェイスとは、他者に好かれたい、認められたいというような、他者と近づきたいというプラス方向への欲求であり、集団への帰属欲求である。一方ネガティブ・フェイスは、他者に邪魔されたくない、立ち入れたくないというマイナス方向にかかわる欲求であり、束縛からの自由への欲求である。ブラウンとレビンソンは、この二つのフェイスを脅かさないように配慮することがポライトネスであると定義した。そして、相手のポジティブ・フェイスに訴えかけるストラテジーを「ポジティブ・ポライトネス」、ネガティブ・フェイスを配慮するストラテジーを「ネガティブ・ポライトネス」と呼んだ。ポジティブ・ポライトネスには、冗談を言うことや、仲間内のことばを用いることが含まれている。また、敬語を有する言語において「敬語使用の原則」を守ることは、この理論では、互いの社会的立場を侵害し

ないことを表すため、全体としてはネガティブ・ポライトネス・ストラテジーになっていると捉えられている。』

村田(2005)では、若者語を龍谷大学キャンパス語の分析を通して、その機能を特に言語の対人関係機能の側面を扱う、ポライトネスの観点から考察している。調査概要としては、2002年度龍谷大学文学部英語学講読受講生100名に、龍谷大学キャンパス語集を作成するにあたり、これに該当する語、及び定義、例文を挙げてもらうというものであった。村田(2005)では、収集したキャンパス語を「造語法」と「表現対象」からキャンパス語の特徴を述べている。以下、村田(2005)による龍谷大学キャンパス語の収集結果をまとめたものである。

### 2.1.1 造語法から見た若者語の特徴

収集したキャンパス語を村田(2005)では、「省略」[例：(大)学祭、基礎演(習)、フラ(ンス)語、再履(修)]「合成」[例：自主(的に)休講(とする)]「名詞の動詞化」[例：コピーをする→コピー、タクシーに乗る→タクる]「英語を取り上げた造語」[例：フル(full)単、チャイ(Chinese)語]「語呂合わせ」[例：シャカシャカ(社会学部社会学科)]「イメージからの語」[例：プリン(茶色く染めた髪が伸びて根元が黒く目立った状態)]「元の意味とは異なる意味で用いられる語」[例：エース(授業にほとんど出席しない人を指す)、キックする(登録した授業の単位取得を諦める事を指す)]の7項目に分類している。収集したキャンパス語において、最も多く分類された項目が「省略」であった。村田(2005)より「造語法1から7に共通するのは、その語を理解するためには、その語の元の語やその語の意味を復元することができるのに十分な既存知識が必要であるということだ。(中略)話し手は、聞き手が共通の既存知識を有しているはずだと考える際に、このような語を使用すると考えられる。」と述べている。つまり、キャンパス語は既存知識を共有している仲間同士の間で使用されているのである。また、省略語の特徴として、会話のスピードを速めテンポを良くする、娯楽性を高め会話を促進する機能があり、さらに「エース」「キックする」のようなマイナスイメージの語をプラスイメージの語で表現することによって、発話内容を和らげ、ユーモラスにすることも可能であるとされている。

### 2.1.2 意味対象から見た若者語の特徴

前項では収集したキャンパス語を造語法という視点から分類したが、この節では村田(2005)をもとに、表現対象による分類をについてまとめる。分類項目は、「授業、成績、あるいは大学行事に関する語」[例：基礎演、再履、学祭]「龍谷大学の構内施設に関する語」[例：祇園精舎<sup>1</sup>、瀬田キャン<sup>2</sup>]「龍谷大学の学部(学科)・学生、あるいは大学組織に関する

---

<sup>1</sup> 祇園給孤独園沙羅双樹(寺院)の略称が祇園精舎で、釈迦が修行したとされるインド中部の僧坊跡を指す。顕真館は法要等が行われる場所でもあり、そのイメージから祇園精舎と呼ばれる。

語」【例：シャカシャカ、瀬田っ子<sup>3</sup>】「龍谷大学の周辺施設に関する語」【例：えい、ポポロ】  
「仏教に関する語」【例：寺っ子<sup>4</sup>、祇園精舎】「日常の行動・生活習慣に関する語」【例：エース、追いコン】「移動や通学手段に関する語」【例：瀬田バス、チャリ】「情報伝達手段に関する語」【例：パソる、コピカ】「人間関係に関する語」【例：おな中<sup>5</sup>、じもティー<sup>6</sup>】「遊び・娯楽に関する語」【例：合コン、飲み】「ファッションに関する語」【例：プリン、オネエ】「進路に関する語」【例：就活】の12項目である。村田(2005)より、「ここに分類される語は、龍谷大学の学生生活に直接関係する需要や組織、あるいは建物等を表す語である。該当する語は116語中74語で全体の64%を占める。(中略)これらの語を理解するためには、龍谷大学についてさまざまな既存知識があることが前提となる。」と述べられている。これらのように既存知識を共有した仲間同士で使用するような若者語はなぜ使用されるのだろうか。

前項では、言葉を省略するという造語法は、発話内容を和らげ、ユーモラスにする働きがあると述べた。しかし、これらを使用する場合は会話をする者同士が既存知識を共有していることが前提とされる。意味対象からの特徴としては、村田(2005)より「キャンパス語は学生生活に密接に関わるもの・人・概念等を表現するということであつた。ゆえに、キャンパス語の使用には、聞き手と知識を共有していることを確認し、会話を楽しみ、連帯感や親近感を分かち合う機能があると考えられる。」と述べられている。つまり、これらは会話する相手と円滑な対人関係を構築し維持することに繋がるとされているのである。このようなキャンパス語の機能について、言語の対人関係に関わる機能面を扱うポライトネスの観点から考察すると、村田(2005)では「キャンパス語に見られた、親しみを表す、会話を楽しくする、聞き手と連帯感を分かち合う、言いにくいことを言う際相手を傷つけないようにするといった機能は、ポライトネス理論の枠組みから捉えると、すべてポジティブ・ポライトネスであると言える。」と述べられている。しかし、避けたい話題がある場面で若者語が使用された場合、この行為はポジティブ・ポライトネスと言うことは可能なのだろうか。また、若者語を使用することで連帯感を分かち合えるとは限らないのではないだろうか。この疑問についての考察は、後ほど第4章、第5章で述べる。次に、若者語が使用されやすい話題について述べられている先行研究についてまとめる。

## 2.2. 若者語における話題の選択

熊谷・石井(2005)では、19項目の話題を設定し、日韓の回答者がそれらの各々について親疎・性別の異なる相手との会話で取り上げたいと思うかを調査している。この調査は、「話題選択における考え方」「対人相互作用における指向性」「ポライトネスのあり方」を考察

---

2 瀬田学舎

3 瀬田学舎に所属学部のある学生

4 実家がお寺の学生

5 同じ中学出身者

6 地元の友達

していくものと述べられている。19 項目の話題は以下の通りである。

〈出身地〉〈年齢〉〈家族〉〈自宅の場所や住環境〉〈結婚〉〈恋愛・異性の友人〉〈身長・体重などの体のサイズ〉〈自分や相手の服装や髪型〉〈健康状態〉〈趣味〉〈血液型・星座〉〈自分や家族の収入〉〈スポーツ・テレビ番組・映画・芸能人〉〈余暇の過ごし方〉〈社会問題〉〈進学・教育〉〈宗教・信仰〉〈授業や仕事〉〈出身校・在籍校〉
--

熊谷・石井(2005)における調査対象は、「1934-43 生まれ：高年」「1954-63 生まれ：中年」「1974-78 生まれ：若上」「1979-83 生まれ：若下」とされているが、本研究では日本の若者且つ女性が使用する若者語を対象としているため、熊谷・石井(2005)の調査結果は、「日本人・若下」のみ取り上げる。熊谷・石井(2005)における調査方法は、各年齢層に向けたアンケート調査と、東京および埼玉にある 4 つの大学の学生とソウルおよび春川にある 4 つの大学の学生を対象にした面接調査の二つである。アンケート調査では、会話の話題選択に関する質問を分析し、面接調査では、約 1 時間、同性の学生 2 人を 1 組として、調査者がトピックを提示し、話の流れに沿って適宜質問する。話題については 19 項目のリストを示し、「初対面の相手と話すときにどのようなことを話題にするか」「あるいはどのような話題を避けるか、それはなぜか」について調査し分析している。これらの熊谷・石井(2005)による調査結果は以下の通りである。

進んで話題にする	趣味、スポーツ・テレビ番組・映画・芸能人、余暇の過ごし方、年齢、家族、自宅の場所や住環境、結婚、恋愛・異性の友人、健康状態、服装や髪型、血液型・星座、社会問題、進学、仕事、出身校
話題にしたくない	自分や家族の収入、体のサイズ、宗教・信仰

調査結果をポライトネスの観点から、熊谷・石井(2005)では「日韓の話題選択のポイントとして、話を盛り上げ、展開させていけること、相手の私的部分に立ち入りすぎないことをあげた。これらの二つの指向性は、それぞれ、相手の受け入れられたいという欲求と侵害されたくないという欲求に対する手当を行うという意味で、まさに Brown and Levinson(1987)のポジティブ・ポライトネスとネガティブ・ポライトネスに対応するものといえる。」と述べている。これらから、若者語が使用されやすい話題は、熊谷・石井の調査で得られた「進んで話題にする」という項目が当てはまるのではないかと考える。

### 2.3. 若者語の発祥

若者語は長く使用され続け、言葉として定着するものがあると同時に、流行語のように

短期間で使用されなくなるものも存在する。では、若者語というものは誰が、どの地域で使用し始め、どのように広まるのだろうか。また、なぜ若者語というものが生まれるのだろうか。若者語が使用される心理的背景として、米川(2006)では「こうした若者ことばが発生する心理的背景に三つのことがある。いずれも青年期心理である。第一に、著しい身体的発達・変化によって他人の目が気になり、どう評価されているか敏感になっているため、体に関することば、人を見た目で評価することばが若者ことばになって出てくる。第二に青年期は自己を発見するアイデンティティ探求時代であるため、人と比較し、自己に対しても他者に対しても批判的に見るが多くなり、若者ことばも人をマイナス評価することばが多くなってくる。第三に自我が芽生えるにつれて自己主張が強くなり、拘束を嫌い、自由を求めて親や教師などに反抗するようになる。さらにことばの規範からの自由を求めて新語や勝手な意味・用法の語を次々と造り出す。若者ことばは若いからこそ生まれる世代語と言える。」と述べられている。

### 3. 研究課題と調査方法

以上の先行研究を踏まえて、本節では本研究での具体的な研究課題とその調査方法について述べる。

村田(2005)で述べられていた、若者語を使用するということが全てポジティブ・ポライトネスに値するという点について、米川(2006)の論考から、若者語というものは心理的背景を見ると、人をマイナス評価する言葉が多いと述べられており、若者語の使用すること全てがポジティブ・ポライトネスに値するとは限らないのではないかと考える。そのことを含め、若者語の使用要因として、実際にどのようなものが挙げられるのかということを検証するため、アンケート調査を行う。

若者語の使用に関する調査概要は次の通りである。調査対象は、茨城キリスト教学園高等学校の生徒計 52 名(男子 21 名、女子 31 名)と、茨城キリスト教大学の在学生女子 8 名である。若者語の使用に関する質問を 6 つ設け、4 択の選択肢から該当するものを 1 つ選んでもらう。予めアンケート用紙に記された若者語以外に使用する若者語がある場合は、書き記してもらおう。

アンケート用紙に記した若者語は、村田(2005)の先行研究で示されている単語と、2016 年度の文化論演習の授業にて、受講生(大学 3~4 年生、4 人)に対して質問調査をして得られた若者語を使用した。具体的には次の 30 の単語である。

追いコン	追いだしコンパの略
学祭	学園祭の略
再履	再履修の略
就活	就職活動の略
新歓	新入生歓迎会の略
卒論	卒業論文略
合コン	合同コンパの略
チャイ語	中国語
フラ語	フランス語
フル単	フル単位 全ての単位を修得することを指す。
今っぽ	今っぽいの略
おけまる	オーケー。(まる)
めっかわ	めっちゃ可愛い略
耳元コンサート状態	イヤホンが反響してうるさい
ぱちやる	ぱってちょっと借りてくる
脳内動物園	頭の中がパニック
ありよりのあり	限りなくありに近いありな事
きびつい	厳しい+きつい
あざお	ありがとうございます+お
MJK	まじか
BFF	ベストフレンドフォーエバー
卍(まんじ)	特に意味は無い
りよ	了解の略
すばら	すばらしいの略
おくちょ	送ってちょうだいの略
パリピ	パーティーピーポー (party people) アメリカ英語の発音から。
ワンチャン	ワンチャンス
良き	良いね。古語から。
メンディー	面倒、面倒くさい。めんどい→メンディーに派生。

また、質問 4、質問 5、質問 6、質問 7 において、アンケート用紙に複数回答可の表記は無いが、複数回答が可能である質問と考えられるため、複数回答されている場合には無効にせず集計することにする。

本研究では、女性が使用する若者語を調査しているため、集計は男女に分けて行う。

以下、第 4 章にて、アンケートの調査結果について詳しく分析する。

## 4. 調査結果

### 4.1. 高校生

まず、高校生の回答から結果を述べていく。

質問1 当てはまるものを選択してください。

- a. 性別 … ①男 ②女
- b. 職業 … ①中学生 ②高校生 ③大学生

男	21名
女	31名

質問2 「あなたは下の表の言葉で、使う言葉はありますか。使う言葉に○をつけて下さい。(複数回答可)

	女子	男子
ワンチャン	81%	62%
パリピ	71%	43%
良き	68%	24%
卍(まんじ)	55%	43%
卒論	39%	33%
合コン	39%	29%
おけまる	39%	38%
りよ	39%	43%
BFF	32%	0%
学祭	29%	24%
就活	29%	38%
メンディー	23%	4%
今っぽ	19%	4%
めっかわ	6%	0%
ありよりのあり	6%	0%
きびつい	6%	0%
MJK	6%	0%
マ！？	6%	10%
脳内動物園	3%	0%
あざお	3%	0%
すばら	3%	4%
追いコン	0%	0%
再履	0%	0%
新歓	0%	0%
チャイ語	0%	0%
フラ語	0%	0%
フル単	0%	0%
耳元コンサート状態	0%	0%
ばちよる	0%	0%
おくちよ	0%	0%

上記の表は女性の回答が多い順に単語を並べている。結果から、若者語の使用には大きな性差があることが分かる。女性が多く選択していた若者語は「ワンチャン」(31人中25人)「パリピ」(31人中22人)「良き」(31人中21人)であった。男性が多く選択していた若者語は「ワンチャン」(21人中13人)「パリピ」(21人中9人)「りょ」(21人中9人)「卍(まんじ)」(21人中9人)であった。30の単語のうち、男女共に全く選択されていなかった9つを除いた21単語のうち、女性より男性の使用率が高かった単語は「就活」、「すばら」、「マ!?!」の3つであり、これら以外の18の単語は全て女性の使用率が高いことが分かる。後述する質問4の結果から、女性と比較すると19%の男性は若者語を「使わない」と選択しており、若者語の使用率が低いという結果に関係している。以上のことから、より多く使用しているのは女性であることが考えられる。

質問3. 上記の表以外で使用する若者語はありますか。ご自由にお書き下さい。

⇒ 「ばくわら」「くさ／草／草生える」「やかましーわ笑」「ワロタ」「とりま」「り」「あーね。／あね」「それな。」「まじ卍(まんじ)」「ッ」「おk」「リムる」「ファボる」「ワンチャンある」(男性6名、女性7名が回答)

質問3では、上記の合計14個の単語を得られたが「まじ卍」「ワンチャンある」の二つは、質問2で挙げた「卍」「ワンチャン」と意味が同じものであるため、回答に含まないことにする。

単語	意味	女性	男性
ばくわら	「爆笑」を意味する。	0%	17%
くさ／草／草生える	(笑)を意味する「www」が草に見える事から使用されている。	0%	50%
やかましーわ笑	喧しい(関西弁)。関東で言う「うるさい」	0%	17%
ワロタ	「笑った」の意味。	0%	17%
とりま	「とりあえず、まあ」の略。	43%	0%
り	「了解」の略。	29%	0%
あーね。／あね	「あー、なるほどね」のように納得した様子。	43%	33%
それな。	共感・同意の意味で使用される。	43%	33%
ッ	手を挙げる・振る動作を表す絵文字。	0%	17%
おk	オーケーの意味。	0%	17%
リムる	Removeの意味。SNSにて使用される。	0%	17%
ファボる	Favoriteの意味。SNSにて使用される。	0%	17%

調査結果より、得られた単語の中にはインターネットスラングに分類される単語が含まれ

ていることが分かる。インターネットスラングとは、デジタル大辞泉では『インターネット上の電子掲示板や SNS、簡易ブログなどで発生し、使用される俗語。「ググる」「コピペ」「リア充」など。ネットスラング。』と定義されている。先述したように、本研究では口頭での会話で使用されることが無く、電子掲示板やインターネット上のみで使用されるものをネットスラングとするため、若者語とは別の物として扱う。

以下、上記の単語を

- ① ネットスラング(現在もネットスラングとして使用されている単語)
- ② ネットスラングから口頭の会話で使用されるようになった若者語
- ③ SNS の普及により生み出された若者語
- ④ 方言から広まった若者語

の4つの項目に分類し、結果を述べる。

#### ① ネットスラング ⇒ 「ㇿ」「おk」「リムる」「ファボる」

これらの単語は、SNS で使用することを前提として生み出された単語であるため、口頭での会話で使用されることがないと言える。つまり、会話の中では理解することが不可能だが、画面上に表示された単語を見て意味を理解することができるのである。これらをインターネットスラング、すなわちネットスラングと考える。

「ㇿ」は手を挙げている・振っている動作を表し、絵文字としても使用される。表記は、動作がより明確な半角で使用されることが多数である。(例：またね～ㇿ)

「おk」はオーケーを意味しているが、本来は「理解した」という意味を含まず、理解し難い文章や発言に対して「日本語でおk」というように、発言者を煽るための言葉として使用されていた。肯定的な意味としては日本語入力のまま「OK」をタイプすると、「おk」になるということから広まったというものがある。

「リムる」「ファボる」という単語は、主に Twitter 内で使用される単語である。Twitter 内における「リムる」とは「リムーブする」、つまりフォローを外す行為を意味している。

「ファボる」とはお気に入り登録することを意味しており、両方とも口頭で使用される頻度は少ないと考えられる。上記の結果からは、ネットスラングに関して女性が使用する頻度は低く、男性が使用する割合が高いと考えられる。

#### ② ネットスラングから口頭の会話で使用されるようになった若者語

⇒ 「ばくわら」「草」「ワロタ」

これらは本来ネットスラングであったが、ネットに限らず中高生の間で口頭での会話の中で使用されるようになった単語である。

「ばくわら」とは、「爆笑」を意味している。この読み方が広まった理由の一つはハロー! プロジェクトに所属するアイドルの一人がブログ内で使用したことが挙げられている。

Twitter 内のツイートより「明日の現代社会簡単すぎるわ～ばくわら」のように使用されて

いる。

「草」とは、(笑)を意味するネットスラング「www」が、草に見えることから使用されている。また、「草生える」とも言う。「昨日の〇〇(固有名詞や出来事など)草(生える)」のように使用される。

「ワロタ」とは「笑った」という意味を表している。面白い発言や出来事に対して使用されていることが多い。元は2ちゃんねるをはじめとする電子掲示板内で多く使用されていた。

### ③ SNSの普及により生み出された若者語 ⇒ 「とりま」「り」

これらはネットスラングに分類せず、LINEやTwitter内に打つための略語、若者語として分析する。SNSは、ブログや掲示板とは異なり一度の投稿に入力できる文字数が限られていることが多いため、これらのような略語が多く使用されていると考えられる。「とりま」はその典型例と言える。「とりあえず、まあ」と正確に下記表わされることは少なく、「とりま」の形で使用されることが殆どである。「とりま、だれか話そう」「とりま、課題終わらせてくる」のように使用される。また、正確に文字を打つよりも、略語の方が短時間でより楽に文字が打てるということで多く使用されているのではないかと考えられる。

「り」とは「了解」を意味している。「りよ」という略し方も存在するが、「とりま」と同様に、LINEをはじめとするチャット等の短文で会話をする場面においては、文字を打つ回数が少ない「り」を多く使用することが考えられる。

### ④ 方言から広まった若者語 ⇒ 「あーね。／あね」「それな。」

「あーね。」とは、本来九州地方の方言であり、後に関東へと広まったものである。以下、二階堂(2014)の論考をまとめたものである。

#### 『【2004年度の福岡の女子大学生の会話の一部】』

A 派遣会社で契約した方が、時給高いよ。

B ああ、そうなんや。

A うん、全然違うもん。

B あーね。

A 同じ仕事で、でも、なんか紹介料として、最初、600円とられるけど、時給的に200円ぐらい違うっちゃんね。

B ふーん。

この2004年ごろは、「あーね」と同時に「うそ」「まじ(で)」も多用されていた。現在では、福岡の若者は「あーね」のほうをよく使う。大学生の日常会話を聞いていても、頻繁に耳にする。なぜ、「うそ」「まじ(で)」よりも「あーね」が増えたのだろうか。

これには、現代の若者の気質がかかわっていると思われる。最近の若者は、仲間と直接的なコミュニケーションをさける傾向がある。言葉の面でも、相手に対し、必要以上に気を遣った表現やあいまいなぼかした表現を好んで使うようだ。

「あーね」はこの傾向に合う言葉であった。「うそ」「まじ(で)」は強い印象があり、軽い相槌には使いにくいと感じる。「あーね」は強い印象を出さずに、相手の言うことを聞いてはいるのだということを示すことができる。』

また、福岡から関東へ「あーね」が広まった背景としては二階堂(前掲)では次のように述べられている。『これには、に地理的・時代的な背景があったと思われる。この言葉の一大拠点が福岡であったこと、そしてその時期が 1990 年代の後半であったことである。

現在、九州では、福岡の一極集中が進んでいる。それは 1990 年代からすでに起こっていた。1990 年、福岡市天神にイムズ・ソラリアという大きな商業施設ができた。このころから、週末、福岡に若者を中心に他県から多くの人がやってくるようになった。

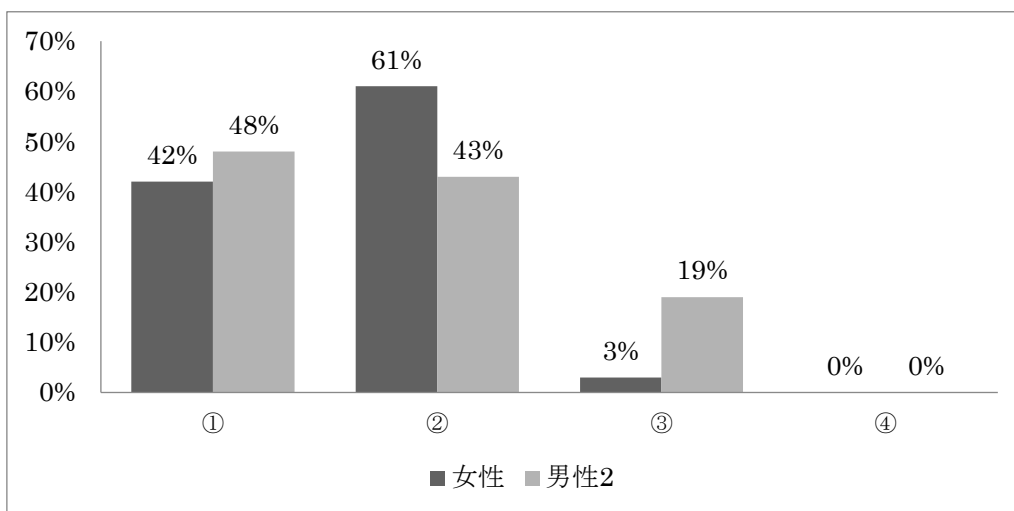
1995 年には高速道路が福岡・鹿児島間で繋がった。1996 年には多くの若者が訪れる福岡のキャナルシティが開業した。JR だけでなく、各地から料金の安い高速バスを利用して、若者が福岡にやってくるようになった。交通網の発達に伴い、九州の多くの福岡県外の若者が福岡にやってきたのである。福岡は若者にとって魅力ある地であるため、そこで話される福岡の言葉も肯定的に受け止められる。結果として、「あーね」が九州の他県まで広がっていったのではないかと思われる。』つまり、福岡の交通網が発達したことにより、全国の若者の出入りが増加し、それに伴い福岡の方言が広まったのである。

同様に、「それな。」も元は関西弁に由来している。強い肯定を意味するのではなく、取り敢えず肯定しておくという意味で使用されることが多い。会話の流れによっては、強い肯定を意味する場合もあると考えられる。「あーね。」「それな。」は口頭での会話の中、さらに SNS 内でも頻繁に使用されている。

今回のアンケート調査で挙げて頂いた若者語の中では、男女問わず「あーね」「それな」の使用頻度が高いということが分かる。

質問 4. 上記の表のような若者言葉はどのような場面で使用することが多いですか。当てはまるものに○をつけて下さい。

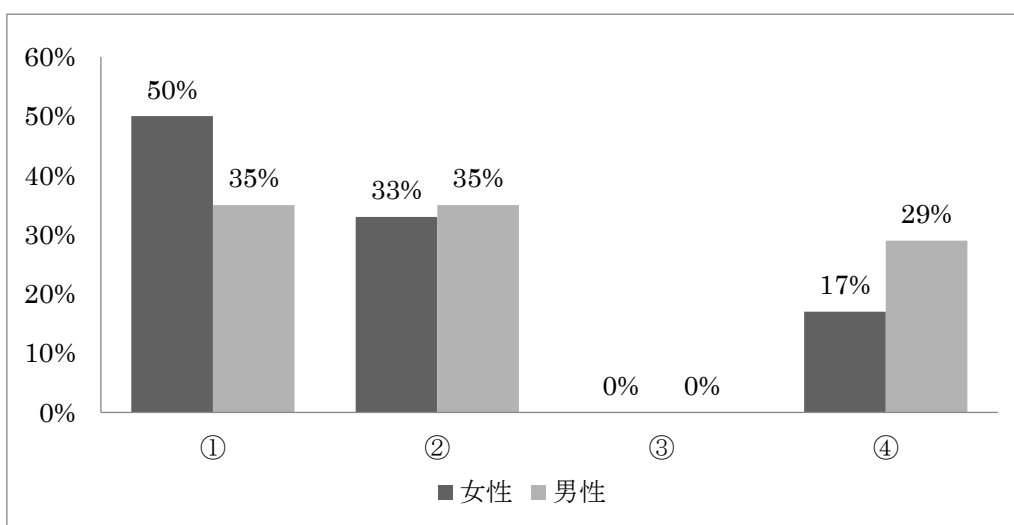
- ①口頭での会話
- ②LINE やメールのやりとり
- ③使わない
- ④その他



結果から、使用する場面にも性差が生じ、男性は口頭での会話、女性はLINEやメールのやりとりにおいて若者語が多く使用されていることが分かる。米川(2017)の記事が述べていたように、現代では、直接的な会話よりもSNSやチャットのようなネットを通じた間接的な会話が広まってきているため、生み出される若者語も、会話するための言葉ではなく、画面に書き込むための言葉の方が多いと考えられる。そのため、口頭での会話よりも、LINEやメールのやりとりで使用されることが多いのではないだろうか。

質問 5. なぜ若者語を使用しますか。当てはまるものに○をつけて下さい。

- ①会話を促進する
- ②楽しいから・仲間意識を高める
- ③会話が他の人に分からないように
- ④その他



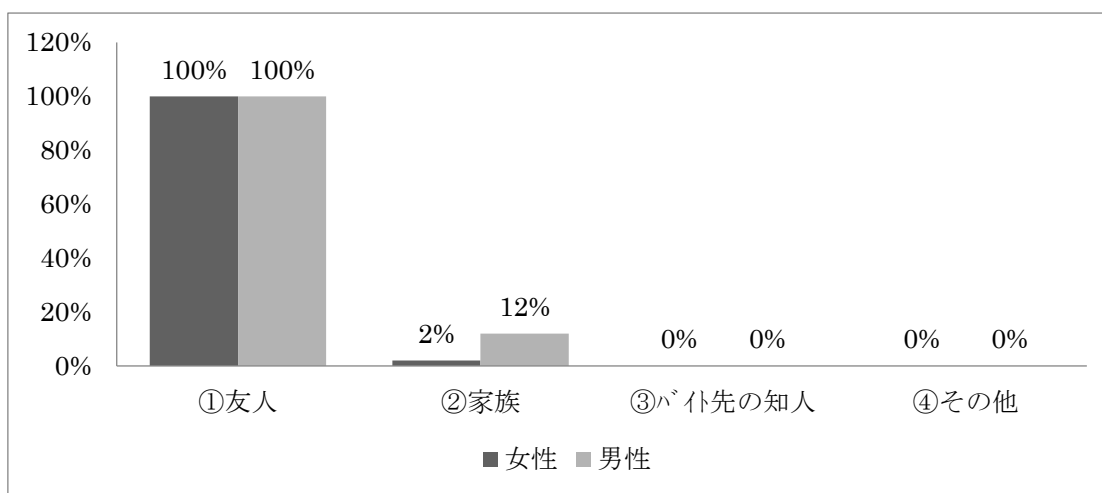
質問 5 以降は、質問 4 で「若者語を使わない」以外を選択した人のみ回答している。そのため、男性 17 名、女性 30 名として割合を出した。選択肢①、②、③は「先行研究」で述

べた米川(1988)の若者語の機能のうち「会話促進」「娯楽・連帯」「隠蔽」の3つから選んだ。「イメージ伝達」、「緩衝」、「浄化」は今回調査対象として選んだ若者語には該当しないと考えられるため除外した。

男女の回答で、会話が他の人に分からないようにという項目を選択していたのは0人であった。若者語をそのような目的で使用している若者は、現代では少ないと考えられる。また、男女共に①②を選択した者が多いことが分かる。その他の項目には、男性より「楽だから」「短く済む」「新鮮さがある」「何となく」、女性より「友達からうつった」「楽だから」「何となく」「癖になっている」「未回答」が挙げられていた。「楽だから」「短く済む」という回答には、スマートフォンやSNSの発達が大きく関係していることが考えられる。

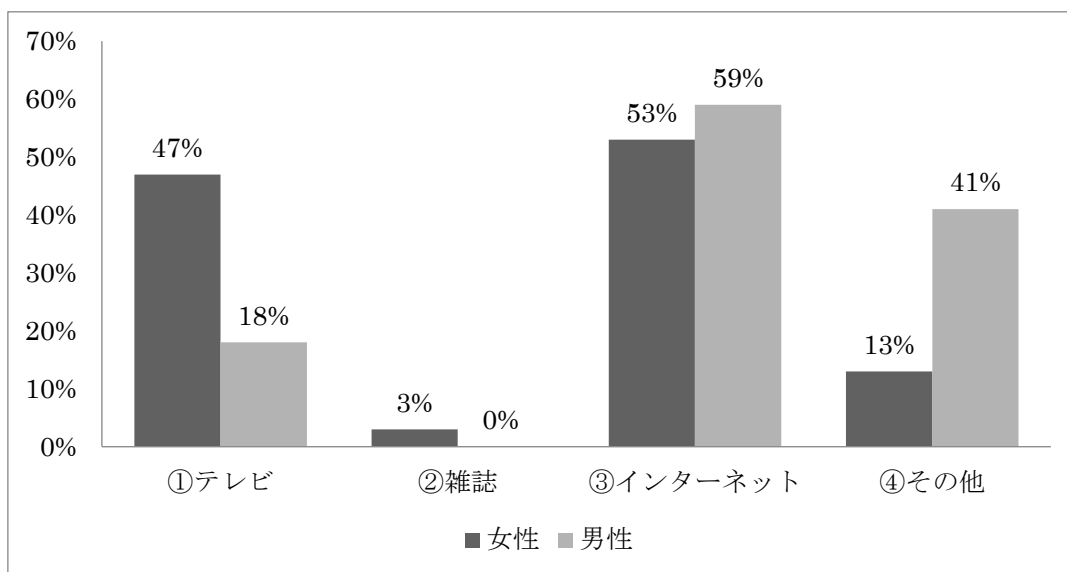
女性の回答では、①の会話を促進するが多く選択されていた。SNSやLINEの会話は特に、会話のテンポや返事をするタイミング・速さが重要視されている。そのため、略語が多く使用されている。「了解」を「り」という一文字で表す若者語が生まれた理由の一つである。マイナビ学生の窓口調べによると、了解を「り」と略して使用する学生は約5割とされていた。

質問 6. 誰と会話する時に若者語を使用しますか。当てはまるものに○をつけて下さい。



バイト先の知り合いを選んだ人は男女ともに0人であった。若者語を使用する場合は、友人が相手の場合が多いということが分かる。家族を選択している回答も見られたが、家族の場合、使用した言葉が通じないという問題が生じる。若者語とは、予めその言葉の意味を理解している者同士が、会話を促進させるために使用する言葉であるため、年齢に差がある場合は通用しないということが考えられる。③のバイト先の知り合いの場合は、友人のように毎日顔を合わせられるような近い存在ではないため、若者語を使用する対象としては考えることができない。

質問 7. 若者語は何から(どこから)聞くことが多いですか。当てはまるものに○をつけて下さい。



男女共に一番多く若者語を聞く媒体はインターネットであった。現代は口頭での会話よりも SNS を含むネット社会が発展している。そのため、若者の情報入手法はインターネットとなる。

男子で 2 番目に多く選択されていたのが、その他に記入されていた「友人から聞いた」という項目である。質問 4 以降から読み取れるように、男性の若者語の使用頻度は女性と比較すると低いことが分かる。質問 5 で得られた回答からも、若者語を意識して使用するのではなく、何となく使用しているという項目を挙げた人数が多かったのは男子生徒であった。そのため、若者語に対して男性は消極的と言えるのではないだろうか。雑誌やテレビ番組の特集で取り上げられているのは、主に女性が使用する若者言葉である。「おけまる」のように、可愛さを求めた言葉が典型例である。

女子で 2 番目に多く選択されていたのが②のテレビである。男子が 3 人選択していることに対し、女子は 14 人が選択していた。若者語の中には、若者自身が生み出した言葉に限らず、芸能人が使用していたことが影響し、浸透した言葉や芸能人に由来する言葉がある。本研究で調査した若者語の中では、「ばくわら」や「メンディー」がこれに相当する。「ばくわら」は前述の通り、あるアイドルが使用した言葉だが、「メンディー」は「面倒くさい」を省略した「めんどい」が変化し、ある人気男性歌手の名前から派生した単語である。

#### 4.2. 大学生

次に、大学生の回答を分析する。大学生は、茨城キリスト教大学の在学学生 8 名(全て女性)にアンケート調査の依頼をした。以下、調査結果である。大学生は回答数が少ないため、且つ、全て女性であるため、%ではなく回答数で示す。

質問 2. あなたは下の表で、使う言葉はありますか。使う言葉に○をつけて下さい。(複数回答可)

追いコン	2	脳内動物園	0
学祭	5	ありよりのあり	2
再履	1	きびつい	0
就活	8	あざお	0
新歓	6	MJK	0
卒論	8	BFF	0
合コン	6	卍(まんじ)	1
チャイ語	3	りよ	5
フラ語	5	すばら	0
フル単	3	おくちょ	0
今っぽ	1	パリピ	6
おけまる	1	ワンチャン	6
めっかわ	3	良き	6
耳元コンサート状態	0	メンディー	0
ばちよる	0	マ!?	0

高校生の回答と比較すると、キャンパス語を選択している者が多数であることが分かる。「今っぽ」からの若者語は主に、中高生の間で使用されている単語であるため、大学生の間で使用される頻度は低いと考えられる。キャンパス語以外で多く選択されていたのが「パリピ」「ワンチャン」「良き」であり、この結果は高校生と大差は見られなかった。「ワンチャン」は大学生の間で多く使用されている。元は麻雀用語であり「一回のチャンスをモノにできれば、逆転できる」という意味が含まれているが、学生が使用する「ワンチャン」は「可能性がある」という意味で使用されている。授業に遅刻してしまいそうな場合、また、単位の取得が困難と感じた場合「ワンチャンいける」というように使用している。

質問 3. 上記の表の言葉以外で使用する若者語はありますか。ある場合は( )内にご自由にお書き下さい。

⇒「フッカル」「フロリダ」「チキる」(回答者 1 名)

の三つの単語が挙げられた。

フッカル	「フットワークが軽い」という意味。
フロリダ	「お風呂に入るから離脱する」という意味。
チキる	怖くなり、思うように行動できないことを意味する。 英語のチキン(臆病者)+動詞化接尾辞「る」→チキる

「フッカル」とは、フットワークが軽いという意味で使用されている。「フッ軽」と表記されることもある。Twitter のツイートより「(ライブを見に来るのかと知人に質問されたこ

とに対して)行く行く!2、3日前に急遽行くこと決めたフッ軽最高!!笑」といように使用されている。

「フロリダ」とは「お風呂に入るから離脱する」という意味で使用されている。これは、主に SNS やチャットを通して会話する際に使用されている。グループや友人同士で会話をしている途中に、「お風呂に入るから抜けるね」という意味である。元はネットスラングとして使用されていたが、後に若者の間で広まり、SNS や LINE 内で使用されるようになった。

「チキる」は「怖くなり、思うように行動できない」場合使用される。「チキってる」「チキってるんじゃない」のように現在進行形で使用されることもある。「ピアスを開けようとしたけどチキってできなかった」のように使用される。

質問 4. 上記のような若者言葉はどのような場面で使用することが多いですか。当てはまるものに○をつけて下さい。

①口頭での会話	6
②LINE やメールのやりとり	5
③使わない	0
⑤ その他	0

全体的に、①②の複数回答が多数だった。8人中使用しないを選択したものは0人であり、全員が口頭での会話や LINE やメールのやり取り内で使用しているということが分かる。1人分の差ではあるが、高校生の回答と比較すると口頭での会話で使用する頻度の方が高いと考えられる。

質問 5. なぜ若者語を使用しますか。当てはまるものに○をつけて下さい。

①会話を促進する	6
②楽しいから・仲間意識を高める	2
③会話が他の人に分からないように	0
⑤ その他	1

「会話を促進する」の項目を選択した回答が多いことが分かる。その他の欄には「何となく、自然に出る」という回答が挙げられていた。高校生と同様に、③の会話が他の人に分からないようにという項目を選択した人は8人中0人であった。このことから、若者語が隠蔽のために使用されるという考えは、現代にはないのではないかと考える。その理由として、アンケート調査の結果を全体的に見た場合、若者語は口頭での会話よりも LINE やメールのやり取りで使用されることが多く、隠語を使用しなくても個別チャットを利用する事で会話が成り立つというのが理由に挙げられるのではないだろうか。

質問 6. 誰と会話する時に若者語を使用しますか。当てはまるものに○をつけて下さい。

①友人	8
②家族	2
③バイト先の知り合い	0
④その他	0

この設問では、8人全員が友人に対して使用するという項目を選んでいった。高校生の回答と同様に家族を選択した人は少なく、バイト先の知り合いを選択した人は0であった。

質問 7. 若者語は何から(どこから)聞くことが多いですか。当てはまるものに○をつけて下さい。

①テレビ	2
②雑誌	0
③インターネット	6
④その他	3

高校生と同様に、インターネットから聞くことが多いと回答した者が多かった。また、雑誌を選択した人は0人であり、その他には「友人から聞くことが多い」と回答していた者が3人いた。高校生と大学生の回答を見ると、テレビの項目を選択している人数は少なく、インターネットから情報を得ている者が現代では多いことが分かる。これも、SNSやインターネットの環境が発達していることが理由の一つと考えられる。

## 5. 結論

以上の調査から分かった結論をまとめる。

- ・若者語は、女性の使用頻度が高く、積極的に使用している。男性は全く使用しないわけではないが女性と比較すると若者語の使用は消極的である。
- ・造語法から見た若者語は、SNSでのやりとりで使用されることが多く、その点も若者語の造語法に影響を与え、打ちやすい略語が多くなる。
- ・機能としては会話促進が多く、特に女性にこの傾向が強いことが分かる。娯楽・仲間意識も多いが、隠蔽を目的として使用することはないと言える。また、スマートフォンやSNSの発展により、「楽」という打ちやすさという機能も見られることが分かる。
- ・これらの若者語は、主に友人同士で使用される。家族間や、知人に対して若者語が使用される頻度は低いことが分かる。
- ・若者語の発祥、広まり方としては、インターネットから知ることが多い。しかし、SNSにおいてフォロワー数が多く影響力のある有名人や、芸能人が発信する言葉より広まることもあることが分かった。
- ・ポライトネスの観点からは、二つの側面が見られる。友人同士という親しい関係でし

か使用されないこと、仲間意識を醸成するために使用するという回答が多いことから、ポジティブポライトネスの側面があることは確かだが、全てポジティブポライトネスとは言えない。「あーね」や「それな」のような相手を気遣った相槌表現が存在することから、ネガティブポライトネスの側面が全くないと結論付けることは難しい。

特に、第3章で研究課題として示した2つの点について、次のことがわかった。

まず、ポライトネスについて、現代の若者は仲間との直接的なコミュニケーションを避ける傾向にあるため、強い印象を与えてしまうような相槌や言葉を選ばない。そのことを踏まえて、「あーね」「それな」のようなぼかしを含んだ表現が生み出されている。これらのことをポライトネスの観点から見ると、強い印象を与えないようにぼかした表現を使用するということは、相手を傷つけないように気遣っていると解釈することができ、ネガティブ・ポライトネスであると考えられる。「あーね」「それな」という二つの相槌は、否定的な意味を含んでおらず、強い印象を与えずに相手の発言を肯定するための言葉なのである。例えば、友達の「お腹空いた」という発言に対して、自分はそう思っていない場合でも、「あーね」や、「それな」を使用することにより、相手との適度な距離を保ち、最低限話は聞いているという意思表示をすることができるのである。また、「あーね」と「それな」は、返事に迷った際、または会話を終わらせる際に使用されることもあるとされている。会話している者同士が、不快に思うことなく会話を終了させる際には「あーね」「それな」が使用されるのである。このことから、村田(2005)による「キャンパス語に見られた、親しみを表す、会話を楽しむ、聞き手と連帯感を分かち合う、言いにくいことを言う際相手を傷つけないようにするといった機能は、ポライトネス理論の枠組みから捉えると、すべてポジティブ・ポライトネスであると言える。」という論述は必ずしもそうではないと結論付けることができる。

次に、現代の若者語の使用要因として、

- ① (スマートフォンや SNS が普及されたことにより)打ちやすい
- ② SNS においてフォロワー数の多い有名人が使用している
- ③ 芸能人による影響

を挙げることができる。アンケートの調査結果から読み取れるように、若者語が多く使用される理由の一つとしては、SNS の普及が大きく関係している。短時間で文章を入力するためには、略語を使用するのが有効的である。なぜ若者語を使用しますかという質問に対して、「楽だから」と回答した学生も数名いた。このことから、米川(2017)の記事で述べられていたように、現代では若者語を使用する楽しさを重視しながら、画面に文字を打つための言葉であることを前提とした、打ちやすい若者語が生み出されていると言える。

②と③において、これに該当する若者語が「亅(まんじ)」「ばくわら」「メンディー」であ

る。「卍」が広まる大きなきっかけとなったのは、SNS 内で学生に人気のある動画投稿者の使用がその一つとされている。「ばくわら」「メンディー」は、先述した通り人気アイドル自身が使用していたことにより広まったとされている。福岡の方言「あーね」が全国へ広まる仕組みと同様に、影響力のある人物から発せられる言葉は、その言葉の意味の良し悪しに拘らず肯定的に受け止められるのである。そのため、有名人・芸能人から発せられた言葉が若者語として多く使用されていると考えられる。

## 6. 終わりに

これまで若者語というものに目を向ける機会がなかったが、研究を通して若者語に関わり、若者語の広まり方や現代の若者語がどのように使用されているのかということを知ることができた。「了解」を「り」と一文字で表す略し方や、「あーね」「それな」のように相手を気遣った表現は日本語の独特な表現の一つであると考えられる。今後、若者語がどのように変化をするのか、また、どのような単語が生まれるのかに注目して調査を続けていきたい。

### <参考文献>

- 宇佐美まゆみ(2005) 『ポライトネス理論』新版日本語教育辞典 p318 - 319 大修館書店
- 熊谷智子 (2005)石井恵理子『会話における話題の選択ー若年層を中心とする日本人と韓国  
人への調査からー』 社会言語科学 第8巻第1号 p93 - 105
- デジタル大辞泉『インターネットスラング』コトバンク <http://kotobank.jp/ネットスラング-668948> (2017年12月24日閲覧)
- 二階堂整(2014)「第9回 福岡の方言から 「あーね」ー福岡から広がった若者ことば(大修館書店「大修館国語情報教室」2014年5月26日)  
[https://www.taishukan.co.jp/kokugo/webkoku/relay002\\_09.html](https://www.taishukan.co.jp/kokugo/webkoku/relay002_09.html) (2017年12月24日  
閲覧)
- マイナビ学生の窓口『若者世代の LINE 頻出ワード! 「了解」を「りょ」「り」って略す大  
学生は約5割』(2016年6月11日) <https://gakumado.mynavi.jp/gmd/articles/37817>  
(2017年12月24日閲覧)
- 村田和代(2005)『ポライトネスから見る若者ことばの機能ー龍谷大学キャンパス語の分析を  
通してー』 龍谷大学国際センター研究年報 第14号
- 米川明彦(1998)『若者語を科学する』明治書院
- 米川明彦(2006)『若者ことば研究序説』言語学 特集 若者ことば大研究 p20 - 25
- 米川明彦(2017)『おけまる、それま、卍・・・なぜ若者言葉は意味不明?』YOMIURI ONLINE  
[http://sp.yomiuri.co.jp/fukayomi/ichiran/20170831-OYT8T50041.html?page\\_no=3](http://sp.yomiuri.co.jp/fukayomi/ichiran/20170831-OYT8T50041.html?page_no=3)  
(2017年12月22日閲覧)

<添付資料>

若者語に関するアンケート

1. 当てはまるものを選択してください。

c. 性別 … ①男 ②女

d. 職業 … ①中学生 ②高校生 ③大学生

2. あなたは下の表の言葉で、使う言葉はありますか。

使う言葉に○をつけてください。(複数回答可)

追いコン	学祭	再履	就活	新歓	卒論	合コン	チャイ語	フラ語	フル単
今っぽ	おけまる	めっかわ	耳元コンサート状態	ぱちよる	脳内動物園				
ありよりのあり	きびつい	あざお	MJK	BFF	卍(まんじ)	りよ	すばら		
おくちょ	パリピ	ワンチャン	良き	メンディー	マ!?				

3. 上記の表の言葉以外で使用する若者語はありますか。

ある場合は( )内にご自由にお書き下さい。

( )

4. 上記の表のような若者語はどのような場面で使用することが多いですか。

当てはまるものに○をつけて下さい。

① 口頭での会話 ②LINE やメールのやりとり ③使わない ④その他( )

(以下 5. 6. は 4. で①、②、④に○を付けた方のみご回答下さい。)

5. なぜ若者語を使用しますか。当てはまるものに○をつけてください。

① 会話を促進する ②楽しいから・仲間意識を高める

③会話が他の人に分からないように ④その他( )

6. 誰と会話する時に若者語を使用しますか。当てはまるものに○をつけてください。

① 友人 ②家族 ③バイト先の知り合い ④その他( )

7. 若者語は何から(どこから)聞くことが多いですか。当てはまるものに○をつけてください。

① テレビ ②雑誌 ③インターネット ④その他( )

お忙しいところご協力ありがとうございました。